

同窓会報

No. 65

編集発行

三重県立
四日市高等学校
同窓会四日市市茂福65
TEL(059)365-3631印刷
創東海フォトデザインシステムモラルハザードを憂う
(倫理観の欠如)同窓会長 熊澤 誠一郎
(四高二十九年度卒)

平素は四高同窓会に何かとご協力、ご援助をいただき厚く御礼申し上げます。お蔭さまで、同窓会運営も、順調に推移いたしております。平成11年に創立百周年を迎えた本校も、同窓会員四万六千人を有する大組織になり、来年は創立百十年の節目を迎えます。

「文武両道」、「質実剛健」の建学精神の下に、現役諸君も勉学に、運動に、大いに頑張ってくれており、評価される実績を残しております。誠に心強い限りです。

創立百十周年を前に、昨暮には、岡田卓也大先輩のご厚意により、本学体育館の緞帳を修理、整備していただきました。厚く御礼申し上げます。この緞帳は、九十周年記念として、当社のジャスコ社長岡田卓也氏から寄贈いただいたものであり、学校、同窓会あけて、改めて深く感謝申し上げます。百十周年には何か心に残る記念事業を行いたく、現在実行委員会をつくり検討しているところです。

さて、昨年も、またまた、不祥事、偽装で明け暮れました。防衛省の安易な業者との関係、それをめぐる政治不信、政治とカネの問題、老舗を自認する料亭や和菓子屋の偽装、さらに建築物や高速道路における手抜き、人材派遣大手の違法、テレビ番組のデータ捏造、などなど次から次へと発生、世界一安心、安全といわ

れた日本は一体どうなつてしまったのかと心痛いものがありました。特に高級料亭は、ひどいものでした。肉、アナゴ、黒豆、めんたいいかなど。経営トップが知つていながら偽装を放置、役員が改ざんを指示していたことなどは誠に情けなく、「食への信頼を失墜させた責任は特段に重いものがあります。老舗のそれとは、責任の証しであり、信用であるはず。この料亭経営陣は、のれんに思い上がり、お客を無視した一種のおりがあつたのでしよう。利益だけを追うあまり、お客さんの顔を忘れ、創業の理念を忘れた。そんな時、一瞬に老舗の歴史も信用も崩れ去ってしまう。企業とは、社会的存在であり、人の命や健康、安全を尊重し、社会のルールを守らなければ存在しないのだと思います。かつて、日本の精神は、「恥の文化」とも言われていましたが、今や恥も外聞もないことがあまりにも多くなつてきました。情けないことですが「損か得か」だけが判断のより所になつてきている感じがします。昨今の、政、官、企業それぞれに見られる不正、不祥事を見るとき「これだけはしてはならない」という倫理観の欠如を強く感じます。国も、企業も、個人も、カネをかえられない大事なことがあることを今一度思い起こし、品格のある存在になりたいものであります。

我が母校も、まもなく百十周年を迎え、素晴らしい歴史を刻みます。先輩と関係諸氏が築き上げてきたこの伝統と信頼を、さらに大きく発展させるべく、関係者一同おごることなく、誠実に謙虚に振る舞つて、社会に、地域の人々に信頼を得る存在になつていきたいものであります。グローバル化、規制緩和の名の下で、市場競争原理による利益最優先の風潮のある現代、「行くに小径に寄らず」、「利を見ては義を思ふ」の精神を更に強く持つて行動していかなければならない時代が来ているような気がいたします。



〈平成20年度総会のご案内〉

平成20年度総会を下記の通り開催いたします。会員の皆様におかれましては、お誘い合わせの上、多数ご参加くださいますようご案内申し上げます。

- 日時 平成20年6月15日(日)
13時30分受付 14時00分開会
- 場所 四日市市総合会館8階 視聴覚室
- 総会 議事・議案審議

- 記念講演 〈講師〉
打田 十紀夫(四高51年度卒)
〈演題〉
「アメリカン・ギター・ソロの魅力」
— ギターの音にロマンを求めて —
・抽選会 ・記念撮影

※終了後、喫茶室にてティー・パーティー(無料)

- 付記 ・会費期限切れの方には、振込用紙を同封いたしました。会費納入にご協力下さい。
・講演につきましては、一般に公開しております。お知り合ひで、ご興味のある方には、ご案内下さい。

- 問合先 四日市高校同窓会館
TEL・FAX 059-365-3631



ご挨拶

学校長 細野 道太郎

同窓会員の皆様には、ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。平素より本校教育の充実発展のため、多大なるご支援やご協力を賜り、心から感謝しております。

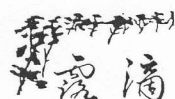
先日、体育館舞台の緞帳の修理を同窓会に相談しましたところ、早速、岡田文化財団(理事長 岡田卓也氏 富中四十回卒)からご支援を賜り、緞帳修理と合わせて、袖幕やホリゾン幕なども新調していただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

日頃の暖かいご支援に支えられ、昨年度(平成19年春)の大学進学実績では国公立大学に254名、私立大学に785名の合格者を出すなどの成果をあげることができました。そして、難関大学への合格者が、十年前と比較して全国で一番伸びた高校として週刊誌上で取り上げていただき、多くの皆さんから「さすが四高」といった嬉しい声もいただきました。

クラブ活動でも、陸上部(500人超)、男子棒高跳び、男子三段跳び、放送部(アナウンス部門、朗読部門)が全国大会に出場するなど、先輩方のよき伝統を受け継ぎ文武両道で頑張っています。

さて、要望を続けていましたトレーニング場が3号館隣に完成しました。木造の暖かみのある洒落た建物です。今、設置する器具などの選定を進めています。さらに近鉄富田駅西口整備事業がいよいよ本格化してきました。体育館のすぐ東側まで駅前のロータリーになることから、以前民家が建っていた土地を譲り受けるなどして、クラブハウスやテニスコート、ハンドボールコートの移転工事の真つ最中です。

平成20年度は工事も一段落し、新しく整備された環境の中で、先輩方の栄光と伝統を受け継ぎ、生徒の皆さんの夢を実現をめざす、学習者本位の教育を一層進めていきたいと考えています。



「ケータイ電話のご使用は他のお客様の迷惑になりますので、マナーモードに切り換えるか、電源を、お切り下さい」毎日、毎日、各列車共、同じ放送がくりかえされる。客の殆んどは、聞いているのか、いないのか、ケータイ電話器にとらめつて指先を懸命に動かしている。ケータイ電話普及当初は、他人の迷惑を考えず、車内は通話の大声が充満していた。あれから数年もたつた間、現在、ケータイもやたらと沈黙の世界だ。

▼わが国に、TVが普及し始めて早や半世紀が過ぎるが、当時、TVに釘づけにされる日本人をみて、「億総白痴化」と危惧されていたが、的はずれではなかつたようだ。TVには「一億総白痴化」以上に、現在のケータイ・メールゲーム現象は「一億総黙秘化」「一億総鬱化」という恐ろしい現象が近い将来、訪れる予感を感じてならない。勿論、視力にも想像出来ない支障が生じるであろう。

▼一億総国民が黙秘状態、自己のみのバーチャル(幻想・仮想)の世界に閉じこもる現象は想像しただけで身の毛がよだつ。「一億総バーチャル人間」の日本とはどのような国になるのか想像もつかない。Face to Faceの人間関係はなくなり、IT機器のみで、コミュニケーションが出来るとの錯覚に陥る。現にIT機器を媒体とした犯罪・トラブルのニュースは連日、見聞している。▼さて、最近、教育現場にも、IT機器に頼る弊害がよく聞かれる。教師と生徒とのコミュニケーションの減少化。ケータイ電話に対して学校ではどのような指導がなされているのか。教育活動に、ケータイ電話は必要なのか。便利さを求める人間づくりを是とするのか。心豊かな人間づくりを是とするのか。今こそ日本の将来のため指導者の責任は重い。将来の指導者をつくり育てるアイデンティティをもつ母校の使命は重大である。

平成十九年度

四日市高校同窓会総会報告

記念講演

大橋 智夫氏

(四高五十九年度卒)

「水滴に感じる生命の響き」

平成19年6月2日
四日市市総合会館
8階 視聴覚室

平成19年度総会は、6月2日土曜日の午後2時から、四日市市総合会館で開催されました。今年は西脇副会長が作って下さった新しい横看板が美しくはえる中、95人の参加を得て、定刻通り、14時に始まりました。

最初に熊澤会長よりご挨拶をいただきました。総会への出席者が高齢化するとともに、固定化しつつあり、対策が必要であるというお話がありました。具体的に対策として、鈴木田副会長からは、各学年の代表である理事が実働していない学年があり、参加できる理事に代えるよう働きかけていく旨のお話がありました。

聖フランチェスコ大聖堂の庭に水琴窟の音、響き渡る



元気が出るような110周年記念事業を

議 事

次に、田中真司氏を議長に選出し、議事に入りました。

総会で審議された議案は次の通りです。

- 第1号議案 平成18年度事業報告
- 第2号議案 平成18年度収支決算・監査報告
- 第3号議案 平成19年度事業計画案
- 第4号議案 平成19年度予算案
- 第5号議案 平成19年度役員・常任理事改選について



大橋智夫講師

議事終了後に、21年度には、110周年迎えることとなり、今年度中には、学校側とも協議しながら、記念事業の企画を検討していこうとの合意を得ました。

その後、抽選会が行われ、全員記念写真撮影後、場所を移して、1階にて和やかな雰囲気の中、ティーパーティーが行われました。



〈受付風景〉



〈抽せん会風景〉

財団法人 四高会 平成18年度収支決算書

(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

【収入の部】

単位：円

勘定科目	細目	摘要	決算額	予算額
寄付金収入		同窓会より	800,000	800,000
雑収入		受取利息	184	1,496
		会館使用料	116,500	115,000
前期繰越金			713,504	713,504
合 計			1,630,188	1,630,000

【支出の部】

単位：円

勘定科目	細目	摘要	決算額	予算額
管 理 費			514,347	1,280,000
	事 務 費		22,975	100,000
	会館修理工費		28,350	560,000
	清 掃 費	環境整備等	62,820	100,000
	保 險 費	火災保険料	18,570	20,000
	光熱給水費	電気、水道、ガス代	381,632	500,000
事 業 費		会議、講演	96,250	250,000
予 備 費			0	100,000
合 計			610,597	1,630,000

単位：円

平成18年度収入	1,630,188
平成18年度支出	610,597
差 引 残 高	1,019,591

(次期繰越金)

百五銀行富田駅前支店普通預金 1,019,591円

同窓会 平成18年度収支決算書

(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

【収入の部】

単位：円

項 目	細 目	摘 要	決算額	予算額
同窓会収入			4,708,930	4,504,000
	入 会 金	全日制1,800円×1,073人	1,931,400	1,944,000
		通信制1,200円×165人	198,000	60,000
	同窓会費	終身 (20000) 110 2200000		
		10年 (10000) 2 20000		
		5年 (5000) 2 10000		
		3年 (3000) 2 6000		
		2年 (2000) 0 0		
		1年 (1000) 391 391000		
		同窓会費計	2627000	
		振込料	-47470	
			2,579,530	2,500,000
雑 収 入		利子、その他	93,515	4,891
繰 越 金			681,109	681,109
合 計			5,483,554	5,190,000

【支出の部】

単位：円

項 目	細 目	摘 要	決算額	予算額
運 営 費			1,232,247	1,330,000
	給 与	給料、手当	1,030,000	1,100,000
	事 務 費	印刷、事務用品等	136,283	150,000
	通 信	電話、郵便料	65,964	80,000
会 議 費			238,229	370,000
	総 会	会場費、懇親会費、景品代	165,198	250,000
	理 事 会	会場費、会議費、案内状	70,581	100,000
	常任理事会	会議費	2,450	20,000
事 業 費		会報印刷及び発送費	625,029	950,000
四高会拠出金		(財)四高会寄付金	800,000	800,000
予 備 費			1,708,400	1,740,000
	積 立 金	積立金	1,700,000	1,700,000
	予 備 費	香典・供花代	8,400	40,000
合 計			4,603,905	5,190,000

百五銀行富田駅前支店普通預金

単位：円

平成18年度収入	5,483,554
平成18年度支出	4,603,905
次年度繰越金	879,649

特別会計積立金(百五銀行富田駅前支店定期預金)

前 年 度 末	12,561,777
今 年 度 積 立 金	1,700,000
利 子	3,014
今 年 度 末	14,264,791

アジア大会「銀メダル」同窓会館へ

快挙！ 女子やり投げ日本代表・四日市高校3年・位田保子さん銀メダル獲得!! 一九五九年フィリピン、マニラ市における第2回アジア大会でのビッグニュースに全国民は沸いた。



このたび、本校創立百十周年を記念して服部(位田)保子さん(四高28年度卒)より、その銀メダル・選手証・ゼッケン等を同窓会館に、寄贈していただきました。早速同窓会館メモリアル・ギャラリーに、大切に保存、常時展示し、同窓会、在校生、一般の方々と共にその栄誉をたたえたいと思います。

総会出席者記念写真



富中、四女、北女卒業生



四高昭和25年度～30年度卒業生



四高31年度卒以降卒業生

理想一しり

〈第11回〉



卒業後の繋がり

坂倉 加代子 (四高三十二年度卒)

毎日が躍動的だった小・中学校時代と違い、私の高校生活は、押し並べて受身であり、平凡だった。

そのせいか高校三年間は記憶の彼方。なのに卒業後は、ずっと『四日市高校』と繋つている。伊勢湾台風に遇つたのは大学二年生の時、近鉄電車がストップし、名古屋までの通学が出来なくなつた。大学側が校内の日本家屋を素早く開放してくれ、桑名高校と四日市高校出身者たちの思いがけない共同生活が始まる。学部が異なる先輩や後輩と共に、慣れない自炊をしながら、戸惑い、笑い、食後には近くの銭湯へ揃って出かけた。

一ヶ月も続けば自然に四高組が出来てくる。その間に一度だけ、もうこの世にいない父が四日市から面会にやってきました。そして四高組のみんなを御園座近くにある『東鮮し』へ連れて行ってくれた。当時の仲間と会うと『あの時のお寿司は美味しかったね』と、まだ話題に上る。

この共同生活がキッカケとなり、大学に四高出身の者たちの『にきの会』を作る。『にき』は四日市弁の『近き』『傍』の意だ。

大学を出ると、私は、女性が働き続けることが可能な、当時としては数少ない職場、四日市市役所に就職した。七、八年が過ぎた頃から、春になると、あの『にきの会』の、顔も知らない後輩たちが、一人、二人と市役所の仲間になってくる。いつの間にか『にきにきの会』が生まれていった。この会には私は退職するまでの長い間、親しんだ。今も個々に付合いは深く続く。

さて私は、四高で新聞部に属していた。はじめて部室に入つた時、先輩たちは記事に、どのような見出しを付けるか話していた。その、世界の古典が飛び交う話のやりとりは刺激を受けた私は、少女小説から脱皮した中国やロシア文学に挑んだものだ。昭和三十年、高校はじめての夏野球部が甲子園で全国優勝。新開部は、一戦勝利する毎に号外を発行し、それはもう、てんやわんや。一年生の私たちも否応なく一人前の仕事を任された。この時の求心力が、卒業後も会おうと約束し、新々会となった。大学生の頃には、このメンバーと鈴鹿の山へ登ったり、夏休みには帰郷した先輩たちがリードする読書会に参加したりした。ずっと途絶えていたのだが、みんなの『定年』を前に再会。私は一緒に新聞を作った時の感触を久しぶりに味わった。

この集りが『昭和二十三年から三十三年度までの新聞部OB会』に伝わり、その大先輩たちから一緒にやろうとお誘いを受ける。そこで私たち『新々会』も加わり、十一年にわたる四高新聞部員が毎年、湯の山へ集うことになった。今年、五回目がもうすぐだ。

『四高』で繋つた人が『にき』にいる温かさを感受し、ふと思う。今、富田へ通う在校生たちの卒業後は、どんなだろう。

平成十九年度会費納入者

(敬称略)

- 〇終身会費(二万円)
- 市川登紀子、渡邊重子、伊藤聡史、萩原未来、未松久奈、石川美帆、齋木良介、岡本桂、佐藤栄太郎、高橋利昌、豊田朱梨、田中秀一、鈴木香穂、鎌田拓樹、三ヶ尻未来、久留美賢祐、後藤春奈、三木卓幸、村田和之、巽勇介、藤岡遼、森みな美、野口直樹、城野智也、志村真人、平手将隆、坂本篤史、村上未紗、九鬼淳、大西拓郎、中條結、館美穂、小野綾乃、富田直紀、森翼、大久保恵、安藤正也、川口淳久、川瀬健一、加藤千恵、神鳥達哉、辻井哲夫、猪飼紋香、細川真代、水谷浩輔、岡田英里、川崎美波、相松久美子、松下真子、田中孝幸、和氣祐子、太田雄也、伊藤望、岩田奈々、松岡将、丹羽恵一、福田晃大、濱田千晶、伊藤竜也、太田航、佐藤真也、前田美沙、山本陽平、石崎創、江間菜々恵、伊藤優司、渡邊須美恵、佐久間智広、大谷紗代、小澤萌子、久保卓也、佐藤亜純、松岡幸希、小林優夏、長島早紀、藤井
- 〇十年会費(二万円) 一名
- 〇五年会費(一万円) 一名
- 〇三年会費(六千円) 二名
- 〇一年会費(三千円) 三名
- 〇年会費(千円) 三十八名
- 会員の皆様、誠にありがとうございます。

- 彰人、樋口佐織、早瀬和喜、後藤文香、伊藤瑞城、駒田めぐみ、村田早希、西村亜紗、内山友莉恵、原澤優希、渡邊美恵、上田早紀、近藤大貴、伊出健太郎、中原縁、富田真司、宮崎智裕、広瀬智行、佐藤美嘉子、中西智美、坂倉由希子、伊藤なつみ、室耕太郎、水貝脩平、鈴木直裕、河村美里、梅山淳也、谷藤亮介、勝田慶、水谷沙織、藪田信、白木達人、出口友美、生川歩惟、森島あつみ、辻裕樹、田中美穂、沖佐織、片山のぞみ、増田明子、小栗古晴、豊田和久、鎌田真理子、井堀歩、森田雅之、小久江良太、朝倉尚子、堀朱美、川村公佑、奥井貴大、長田彩加、市川和茂、水谷安希、森真則、伊藤寛則、富田将史、小菅雄紀、加藤ゆい、服部智仁、井上卓、世古佳也、清水慎哉、大須賀真理子、内田瑞穂、古川昂太、太田文博、岩谷麻由、青山真也、牧松士郎、中川倫久、星野友里、前田涼、成田洋平、加藤大統、印南勇吾、伊藤弘明、白石翼、村田優介、佐藤亜美、小田孝文、小田耕輔、清水麻衣、村中祐輔、山下太郎、山上智之、田中秀和、森江梨奈、伊藤唯平尾一将、田中草平、春日部由佳、丹羽千結、加藤貴紀、浅野友良、加藤大明、伊藤智晃、山川舞、池田智哉、雪田亜希子、國古里沙、森田彩加、竹内健二、坂下久美子、西山千里、稲垣嘉一、今村友二、岩井萌、岡直良、廣島祥子、小塚知加、安元智司、伊藤康敏、林宏樹、原由布子、村上文香、北村真里、松浦紗和、山崎孝恵、黒宮奈央、樋口重紀、水野智章、井村千里、稲垣圭亮、山下康次、谷崎青蔵、伊藤美奈、山本一輝、舌古拓朗、水谷誠也、伊藤ゆりか、堀容子、内山修平、森ゆう香、森優子、青山昭生、大橋智夫、大西和代、鈴木美可、加藤伸康、新田康貴、鈴木将之
- (平成十九年十二月現在)



近況あれこれ

伊藤 通

(富中四十五回卒)

あとひと月で77才になるが、毎年ドックに入るからそれなりに指摘されることも出るけれども、概して申せば至って健康である。

フィットネスクラブに通い出して

15年になる。自転車漕ぎなど一通り廻って2時間たつぷりのコースで、心身共に爽快になる。時々体力測定があり、その他の科目は年相応の数値が出るのに、唯一持久力だけは三十歳代の数値が出てインストラクターを驚かす。富田中学校時代に駅伝の選手だったことにあずかっているのだから。

一方で毎早朝50分のウォーキングを欠かさない。勾配の急な坂に囲まれたところに居を定めたのが間違いない元で、決して気楽な散歩にはなら

した。コレクションをただ並べただけでは芸がないので色んな切り口で括ってある。MIDIの音楽が画面に流れるのもユニークと云えるかも知れない。切手蒐集の専門誌にも逸早く紹介され、現在「こぼれ話」は第37話に増えている。

一方、ゴルフ切手蒐集の方はまだ歴史が浅くせいぜい十数年であるが、ウェブサイトに載せているのは他に例がないらしく、6年前に「週刊ゴルフダイジェスト」誌に最初に紹介されてから、翌年俵誌の「チヨイス」に「日本のゴルフ狂31人」の一人として採り上げられ、今年早々「週刊ゴルフダイジェスト」誌に再度紹介された。

因にURLは <http://hizakurige.net/heimat/index.htm> である。

富田中学時代に鍛えられた心臓のおかげで、あと20年くらいは生きられそうな気がしている昨今である。



思い出

福田 誠

(富中四十五回卒)

私の学校時代はいろいろな変化も多く大変な時代であった。しかし思い出としては野球以外は何もなかった。昭和18年富田中に入學時は戦時中、上級生が大変恐い時代であったが、その上級生も生徒動員で居なくなり、私達も通勤奉仕や、3年生になつてからは生徒動員で工場へ出て、全く勉強は出来なかった。

終戦、それと同時に有志が集まり野球を始めた。丁度私の同期が中心になり、部長には、戦時中最も恐かった池内先生がなられ、監督は、1、2年間は決まった人がいなくて、毎日諸先輩が入り替わり、立ち替わり

で来られていた。勿論その中には岡田卓也(早大在学中)先輩も入っていた。勿論今の様に道具類が揃っていたわけではなく、グラウンドも石ころだらけで狭く、他の陸上やサッカーとも共用で、自然と基礎的なランニングや、バットの素振りを中心であった。また部員も出入りがはげしく、人数も常に20人以下で少なく、やつと練習が出来た位でした。唯練習は正月の2、3日休むだけで、毎日放課後から日没まで、テスト中でも2時間とか、雨天は雨天体操場でよくやりました。また当時サマータイムがあり、帰宅は近くの私でも10時を過

ぎることがあった。また当時は、数も少なく質のよくないボールで糸切れが多く、その補修を授業中にコツコツしたものだ。この様な状態で、勉強が十二分に出来るわけがなかったが、余り不満も言わず頑張ったお蔭で、県内では敵はなく、5年生の春の選抜大会には、大敗はしたが甲子園に出ることが出来たのだ。

私達同期10人は、特にすぐれた人がいたわけではなく、皆が心を合わせ、頑張り、励まし合い努力した結果であり、皆しみじみと、あの練習によく体がもったものだ、感心した程だ。

私自身は、この野球生活で現在の健全な身体と、人間性が出来たと感謝すると共に、この喜寿を過ぎた年になつても、毎日デニスに励めることに感謝をしたいと思う。



高齢化社会の中で

山口 道子

(北女十九回卒)

昭和20年8月に戦争が終わって、混乱した世の中にも平和な日々が、甦ってきました。学校生活も再開されました。希望に満ちた学校生活も瞬く間に過ぎて、卒業の時が訪れました。もつと学校生活を続けていきたい」との思いが、今も鮮明に記憶に残っております。

あの日から早六十年の年月が、流れました。其の後のいろいろな人生を経験して、私達は高齢化社会の中で、生きております。

老後の生活は第二の人生です。時

間的にも精神的にもゆとりのある老後は、過ぎ去った現役時代に出来なかった事も、可能にしてくれそうです。核家族化した現在では、多くの方が自立した老後を、たくましく生きておられます。高齢者教室に、趣味に、旅行に、ボランティア活動にと、老後を有意義に生活されています。私達の老後は、先人の過ごされたきびしい老後を思えば、恵まれていると思います。でも予期せぬ事も、起こります。病気や、怪我、交通事故等です。一瞬の出来事が又病気が、老

後の生活を一変させてしまいます。私事ですが、老後は健康にも恵まれて、三世代家族の中で、孫達の成長を楽しみに、充実した日々を、過ごして参りました。しかし思いがけない事が起こりました。犬と散歩に行つて転倒し、脊椎を損傷してしまいました。その3年後には足を骨折して不自由な身体になりました。その後病院の皆様の始め、家族の暖かい介護に支えられて、やつと体力も回復し日常の生活出来る様になりました。健康で生活できるよこびは最高です。これも家族を始め何かと私を励ましてくださった皆様のおかげと心から感謝しております。今後は健康管理に留意して、残された老後を健やかに過ごさせていた



憧れの制服

青木 三重子

(四女四十五回卒)

小学生の頃、家の前を制服姿で颯爽と通学される女学生の方を、いつも眺めていました。私達の大先輩の方だったのです。憧れの制服でした。絶対に私も着たいと心に決めていた事を今でも忘れません。昭和18年希望にあふれ入学。お友達にも沢山出会え、女学生生活の始まり。少し背伸びし大人になった様で胸はずませました。勉強、種々の行事、その中でも年に一度の御在所岳登山、一年生には、きつく大変でした。下山の折には足がガクガク、足が笑うと言ふ事を覚えたのも、その時でした。

強烈な思い出に残っています。今ではローブウェイで一気に登り着きます。そのローブウェイの窓から広がる山々は懐かしさで一杯です。

楽しい生活が一変したのは、3年生からです。日本中が想定外の凄まじい戦時態勢に突入。その渦の中に私達も否応なく巻き込まれていきました。生徒動員で工場へ、戦力は益々激しく本土空襲で学校も家も焼失、一面焼野原でした。転々と移り変わった仮校舎、それはそれは、言い尽くせない、辛い、悲しい、切ない生活が続きました。でも誰一人として、不平、不服、不満を口にする事はありませんでした。先生のお教への元、無我夢中で頑張ってきました。先生方も、さぞ大変で御苦労がありました。先生方をたてて燃える大きな焚火に、あたたまりながら、甘酒を頂き、お知り合いに、早々とお年賀の御挨拶。もう何十年も続けております。私の楽しみにしています大切な行事です。私の憧れの制服、四日市高女の制服は夢の又夢でした。

生からです。日本中が想定外の凄まじい戦時態勢に突入。その渦の中に私達も否応なく巻き込まれていきました。生徒動員で工場へ、戦力は益々激しく本土空襲で学校も家も焼失、一面焼野原でした。転々と移り変わった仮校舎、それはそれは、言い尽くせない、辛い、悲しい、切ない生活が続きました。でも誰一人として、不平、不服、不満を口にする事はありませんでした。先生のお教への元、無我夢中で頑張ってきました。先生方も、さぞ大変で御苦労がありました。先生方をたてて燃える大きな焚火に、あたたまりながら、甘酒を頂き、お知り合いに、早々とお年賀の御挨拶。もう何十年も続けております。私の楽しみにしています大切な行事です。私の憧れの制服、四日市高女の制服は夢の又夢でした。

戦後の激動も徐々に平和に向かい、安定して行く中、結婚、子育て一生懸命でした。楽しい子育ても無事に終わり、落ち着いた人生に辿り着き、ふと、気がつきました。いつの間にか、年を重ね、今年喜寿を迎えました。お祝いのクラス会にも、元気なお友達が沢山集まり、皆で校歌を大きな声で合唱し、女学生に戻り、楽しいひとときを過ごしました。心許せるお友達に恵まれ幸せに暮らす事の出来た日々、心から感謝し大切にしたいと思っております。今年も、暮れようとしていきます。遠くに聞こえる除夜の鐘を聞きながら、近くの鶴の森神社へ主人と初詣。一年を無事に過ごさせて頂いた御礼を心から、お祈りし、パチパチと音をたてて燃える大きな焚火に、あたたまりながら、甘酒を頂き、お知り合いに、早々とお年賀の御挨拶。もう何十年も続けております。私の楽しみにしています大切な行事です。私の憧れの制服、四日市高女の制服は夢の又夢でした。

人物往来

四日市発のポルトガル語版

安井 廣之

(四高三十五年度卒)

昨夏、東京の「くすりの適正使用協議会」の依頼を受け、四日市在住のブラジル人マリア・坂倉さんとの合作で、薬の服用法に関する絵文字説明書ポルトガル語版を作成した。これはインターネット上で公開され、ブラジル人の間で好評を博している。この説明書については、昨年11月に日本経済新聞が取りあげ、さらにブラジルの衛生放送局からも報道された。

私の外国語学習歴は四日市高校時代に始まる。

一九六〇年ごろの四日市は日本有数の港町で、外国の船員が新道から諏訪にかけてぶらついていて、四高生だった私は彼らに捕まえ、丸暗記した英文をぶつけて英語の練習をした。そんなことを繰り返して、また米駐留軍放送を聴いたりリンガフォンを暗記するなどして、20歳になるころには何とか英語を話せるようになっていた。大学在学中にはフランス語を覚え、フランス政府の奨学金を得て、リヨン大学に留学した。

その後の履歴については省略するが、5年半前に四日市に戻り、開業医として仕事をしている。戻って来て驚いたのは、外国人が多いことだ。笹川地区には何軒もブラジル人の店があり、鈴鹿に行けばうまいブラジル料理店がある。それらの店で、チヨコレート菓子や鶏の丸焼きを買ったり、彼らとテーブルを囲んで料理を注文する日本人は私くらいしかい

ない。

そのうちにブラジル人の友人ができ、交流するようになった。家に遊びに行ったり、来てもらったりで、その結果が薬の説明書ポルトガル語版となった。

アルタイ語族の構造を持つ日本語が母国語では、韓国語がたやすく学べても、インド・ヨーロッパ語族の英語やポルトガル語はむずかしい。だが、ポルトガル語を学ぶ機会は今やいくらかもある。そして、全く異なった構造を持つ言語を学ぶことで、自らの思考過程を違った角度から眺めることもできるようになる。四日市や鈴鹿に住んでいれば、簡単に異文化の世界にトリップできるのだ。私は共生を楽しんでいる。



開業医からの近況報告

寺本 勅男

(四高二十七年度卒)



同窓会を欠席したら会報に文を載せる役目を申しつけられた。寄稿の依頼封書に同窓会報64号が同封されてきた。読んでいてこれまで同窓会の運営に携わってこられた方々の苦勞やお名前を存じ上げなかったことを恥じた。

三重郡朝日町で開業して30年ほどになる。開業当初は3階建ての鉄筋で入院施設も持っていた。外科を専門にしたので手術もやっていた。

開業医は贅沢をして派手な生活をしていると思われがちであるが、それは昔のことである。最近医療は全体によくない。窓口で支払う金が段々増えるようになってから、開業医も病院も診療報酬という医療機関が受け取る金額が減ってきて苦しくなっている。

開業をするとき銀行から多額の借金をする。それを返すのが難しくなってきた。手術は危険を伴うのでやらない入院も止めた。人件費が高くなるので看護士さんや事務員さんをパートにした。

去年の暮れから長男と一緒に仕事をやってくれることになった。古い診療所を改築する計画をたてた。耐震構造を調べたら補強工事に費用がかかることわかった。

古い建物を壊して平屋、木造の診療所を新築した。一生の間に二度新規開業をした。新しい診療所は建坪はほぼ前と同じで診察室、事務室、看護師詰所は小さい。待合室、トイレ、処置リハビリ室は前より大きい。患者さんを優遇し自分たちは狭い所で我慢する方針である。

紙のカルテは使わず電子カルテである。レントゲン室は小さくなりフィルムは使わず画像である。画像は大きくもなるし濃くも薄くもなる。

環境への思い——生かされて生きる心境

清水 正茂

(四高二十九年度卒)



『春を愛する人は 心 清き人 すみれの花のような ばくちの友たち』今から11年前、教職生活を終え、子どもたちとの別れの言葉の第一声でした(歌う)。

富田小体育館、我が母校四高の東線路を挟み建っている子どもたちの学び舎。今、その場面が昨日のよう

ランドマーク

清水 克時

(四高四十年度卒)



四日市高校を卒業したのは41年前です。高校卒業と同時に四日市を離れ、京都の大学を卒業、その後の23年間、生活の中心を京都におきながら、島根県、福岡県、米国のミネソタ州に2、3年づつ住みながら転々とし、11年前に京都から現在の岐阜市に生活の基盤を移しました。

故郷を離れていると、四日市のランドマークが気になります。ランドマークとは都市の顔、特徴ある建物や構造物で、その都市をすぐに連想できるものです。ランドマークは外からの来訪者の道案内になるだけでなく、その都市の住民や同郷者にと

って、精神的なよりどころにもなります。特に自然物やその地域の歴史を刻んだ事物は、長い年月のあいだに、住民や、同郷者にとって、かけがえのない心のささえです。私が思い浮かべる四日市のランドマークは右衛門銅像、四日市港、四日市高校のランドマークは十四川堤の桜並木でしょう。

自然や構造物だけではなく、メデ

に思い出される。私にとっては、温かい雰囲気包まれ、忘れることのできない一コマです。多くのことを学ばせてもらった二度の卒業の場が隣接所だったとは、不思議な縁です。校門近くで見た小さな自然の姿。かわいらしい花、しかも清らかな花。道ばたに、田んぼの畦に、谷間に人知れず咲く花。子どもたちに語りかけるきつかけを与えてくれた花。

私が、育てられた生活の舞台、水沢の地。何気なく足元に目をやると、すみれ、たんぽぽ、露草等々、身近に生えている草を見つけることができる。いろんな姿を映し出して、何となくほっとした気持ちになり、心にゆとりを感じさせてくれる。

目を転ずれば、西には鈴鹿連峰の山々、東を見れば伊勢平野が広がり、伊勢湾・知多半島・志摩半島、そして神島が一望できる扇状地(台地)上に立地するわが郷土。小さな自然と大自然に包まれ、四季の変化を楽しませてくれる環境の中に、生かされ生きる今の私です。

このような豊かな自然環境の地域で、先人の苦労、努力の跡(史跡・文化財等)が見られ、特色ある地場産業(茶・花卉園芸等)の展開、優れた農山村景観を形成している。

今私は、この地で地域社会づくりに参加し、人と人とのつながりを大事に、子どもから高齢者に至るまで、世代を問わずに中に入り込み、話ができる、語りかけられる環境・場が与えられていることに感謝している。一日一日を大事に、笑顔忘れず、周囲の環境(自然・人)に生かされながら、私が今まで得させてもらい、味わった充実感・情感・温かい雰囲気大切に、地域づくりに関わり、生きていきたい。



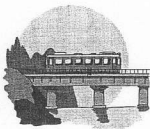
本日も無事故で「出発進行」

多田 直樹

(四高五十三年度卒)

四高生時代の思い出として3年生の3階の教室より近鉄電車がよく見えました。ちょうど昭和53年は、近鉄特急の看板列車として活躍した「ビスタカーII型」のお別れ三重連が長期にわたって行なわれ、授業中にもかかわらず外を見ていて何故か先生に注意されました。また、授業力アップがあると、自習せずに友人から自転車借りて国鉄富田駅に、貨車の入換や客車・ディーゼルカーを見学に行きました。その中でも名古屋発天王寺行特急「くろしお」号の通過シーンは迫力がありました。卒業アルバム撮影時には、旅行研究会の部員と国鉄富田駅をバックにして写し

た思い出もあります。現在、私は少年時代から鉄道員になりましたという夢が実現し、伊勢鉄道に勤務しています。運転士から信号係を経て車両の管理を行っていました。20年前の開業時より使用してきたレールバスの更新が完了したところです。新型車両はステンレス車体に英国製カミンズエンジンを搭載し最高速度100キロで走行します。お客様からは車内が広くて乗降もし易いと好評です。また、月に数日は運転士不足のためハンドルを握ります。「中線場内注意、四日市停車」大きな換呼が客室まで聞こえましたら私の運転です。特に乗務する時は、



懐かしい「熱中の日々」

三角 稚奈

(四高六十三年度卒)

「三角、ちよつと...」1年生の初夏でした。クラスの掃除担当で、美術室の机を拭いていた私は、S先生に呼びとめられました。先生は以前から生徒の間で怖い先生として評判(?)で、私もその時は、掃除の仕方が悪くて叱られるのかと思いました。恐る恐るついて行くと予想もしなかった事ですが、美術部に入ってみたいかとお誘いでした。それからというもの、私の高校生生活は殆んど美術室で費やされました。授業前にはデッサン、放課後はコンクール等の課題と、傍から見れば朝から晩まで絵を描く「変な生徒」だったに違いありません。私も部に入った当初は、何故土日の休日まで絵を描き続けなくてはならないのか理

解できませんでした。しかしこうして卒業し、社会人になって初めて、あの日々が無駄ではなかったと気付きました。それは、常に対象物を見る事、時間をかけて観察し表現する事が、社会で様々な事象に置き換えられたものだったからです。例えば「問題の分析・検証」「人間関係・コミュニケーション」など。腰を据えて本質を探らなくてはならない時に、無意識のうちに活かされています。私は四高生にあるまじき勉強の出来ない、担任の先生方には大変手のかかる子供でしたので、もしあの時S先生に声を掛けて頂いていなかったら、きっと更に沢山の方に迷惑をおかけして、全く違う人生を歩ん



努力は才能を超える?

森 優子

(四高平成六年度卒)

『努力は才能を超える』これは、高校生の時、私の頭にいつもあった言葉です。自分自身のポスターを作るという美術の授業がありました。私は、うさぎとかめの重話をともに、うさぎが寝ている間にめが追い越していく絵を描き、そこにこの「努力は才能を超える」の文字を添えました。私はそんな人間を目指してました。努力を重ねていくことで、様々なことを越えていく人間を。うさぎに追いつき、追い越せるようにがんばりたいと、私はひたすら絵を描きました。

大学に入学して、同期生の描く絵を見たとき、必ずしもそうではないと知りました。才能を持っている人間の素晴らしいし、努力を重ねていくこともできない領域もあるんだなあ、と。

様々な出会いに感謝して

平野 結子

(四高平成十一年度卒)

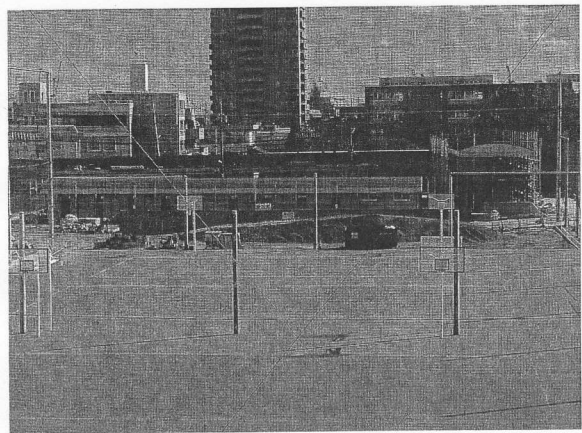
たった徒歩5分の通学路を走って登校していた頃を懐しく思い出しながら、今も同じ道のりを通勤の為にあわただしく走っております。富田駅ですれ違う四高生の、今も変わらない若いパワーに圧倒されて、ようやく仕事へのスイッチの入る毎日です。

今年の夏、地中海を巡る豪華客船で初めての海外クルーズ添乗へ行きました。朝日があたってオレンジ色に輝くモナコの風景、日の出と共にゆっくり進むヴェニス幻想的な入港風景は、船旅だからこそ味わうことのできる経験です。また、船のおいしなお食事、華やかなフォーマルディナー等々、感動的な体験をさせて頂きました。そして、何よりも人生の大先輩で色々な事を教えて頂いたお客様との出会い、仕事に協力して頂いた、世界各国から集まっている船のスタッフとの出会いは貴重なものだったと思っています。



富田駅前広場整備事業は 平成20年度完成

市長が公約し、永年の市の課題となっていた近鉄・三岐富田駅前広場整備事業にともなう四高の工事は平成19年度中にすべて終了し、平成20年度は富田駅前広場整備事業が行われます。バスが転回できるロータリーと駐輪場が整備されます。また、四高生は駅前広場から直接校内に入る通用門ができ、より安全で便利な通学が可能になります。

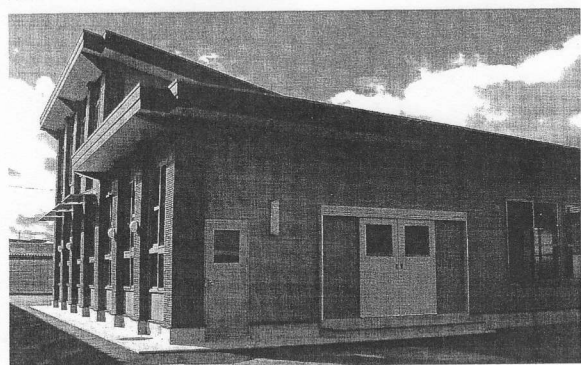


テニスコート1月完成 部室棟2月完成 ハンドボールコート3月完成

テニスコートと部室が整備箇所にかかっており、当初は代替地を探したのですが、既に周囲の開発も進み、思うような土地が周囲にはなく断念せざるを得ず、一度は頓挫しました。しかし、隣接する民有地と一部交換し、授業やクラブに支障をきたさない最低限の土地を確保し、機能を高めるような補償を得ることで受け入れることになりました。

しかし、グラウンドの夜間照明施設の整備など実現できていないこともあり、引き続き強く要望し、何とかして、クラブの強い期待に応えたいものです。

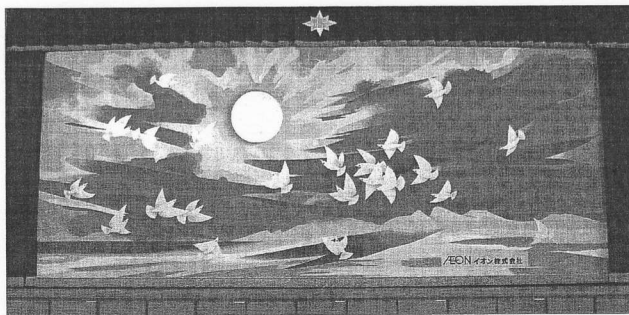
とはいえ、平成20年の3月末には、テニスコート4面、ハンドボールコート1面、屋根がアーチ型の部室が2棟完成します。



トレーニング場新築

平成19年7月からトレーニング場の工事が始まりました。場所は、3号館と武道場の間で、三重県産の天然木の集成材を梁につかっており、木のぬくもりが感じられます。また、一部が吹き抜けになっており、開放感のある美しい建築物です。しかし、予算不足でトレーニング機器が十分でなく、この整備は今後の課題です。しかし、永年の夢が実現し、四高生がこの施設を生かして、文武両道を実現してくれることを心から願っています。

学園だより



修理された緞帳

現在の四日市高校体育館の緞帳は、平成元年に創立九十周年式典と共に行われた体育館落成披露の場で、当時のジャスコ岡田卓也社長(富中40回卒)より寄贈された物です。「朝日に輝く伊勢の海と飛び立つ一群の白鳩」をあしらった色鮮やかなデザインは、他の県立学校の体育館には類例は見られません。しかし、20年にも及ぶ経年劣化により、裏地は破損し、中折の吊り支柱がむき出すなど、度重なる応急処置にもかかわらず落下の危険性

まで感じる状態となっていました。学校行事も含め生徒の活動の支障など、困惑していた事態を熊澤同窓会長に相談を持ちかけたところ、岡田卓也氏と直接お話しいただき、ここに緞帳の修繕、水引幕、袖幕、ホリゾン幕の新調をしていただけたという事となりました。20年前にこの緞帳を作成した京都の佐藤商店によって、平成19年12月4日にすべて設営が完了いたしました。

(教頭 丸山靖弘)



大人への一步

三年三組 中原 穂

私は四日市高校で、素晴らしい先生方や学友に恵まれ、とてもよい環境の中で充実した高校生活を送ることができました。高校での3年間は、色々な人と出会う中で私にたくさんのお話を聞き、学び、経験する機会を与え、そして私を大人へと一歩ずつ成長させてくれました。その中でも特に大きな一歩となったのは、「他人の立場に立つて考える」ということを学んだことでした。

そんなことは小中学校ですでに教わった考え方ではないかと思う人もいるかもしれませんが、しかし私は「他人の立場に立つ」ということは、他人の「考えを認める」ということだと気付くことができました。しかもただ受け入れるだけでなく、自分の意見をしっかりと持った上で相手の意見を認めるということだと思えます。高校に入学した頃の私は、実は全くといっていいほど、他人の立場

に立つて考えることができていなかったように思います。していたことといえば申し訳程度に相手に遠慮することのみで、自分の意見を押しつける、相手の意見は押さえつける、今思うと自分勝手な自己中心的な接し方でした。そんな私に変化を与えてくれたのは演劇部での活動でした。私は演劇部で役者だけでなく、脚本を書くようになりました。脚本の中では自分とは違うたくさんの方々が生きています。自分と同じ考え方の人はもちろん、全く反対の考え方の人もいます。それらの人々を表現するために、私は自分の考え方を超え、色々な考え方を学ぶ必要がありました。そのために私は先生や部員、友達の意見をよく聞くようになりました。そしてすぐに結論を出すのではなく、じっくりと自分の中でよく考えるようになりました。そのようにして色々な考えながら脚本を一冊仕上げた時、私の世界観は全く別の物になっていたのです。特にそれを実感したのは友達と衝突した時です。以前までの私なら、相手の非を探しすぐに決めつけ、自分の非を探し出すことをしなかったでしょう。しかしその時は、相手の意見をしっかりと聞き、理解しようと努力し、自分の主張も交えてじっくりと考えようとしていました。するとそれまで気づかなかった自分の非が見えてきたのです。それは私にとってとても驚くべきことであり、また自分の成長を感じることができた瞬間でした。私はその友達と無事和解することができ、今でも仲のいい友達です。この時初めて「大人の世界」という、まだはつきりとは分からない世界に確実に一歩を踏み出したという実感がありました。

これから先、私はまだまだたくさんの方々と出会い、様々な経験をするでしょう。その度に、立派な大人になるための一歩を踏み出す努力をするでしょう。しかし、その初めの一歩が四日市高校での経験であったことを、忘れたくないと思います。